



特別栽培米
環境こだわり農産物

2018年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.1 温湯消毒&脱水編

(2018.04.06)

今年は暖かい日が続き、桜の開花も早く、育苗センター近くの桜は早くも舞い散る中、今年の育苗作業が始まりました。播種前の下準備から始めます。

温湯消毒～浸種

播種ハウス周辺の草刈りや育苗センターの点検など育苗の準備が終り、種子の準備に入ります。播種をするためには**芽出し**が必須となります。最初に種子を60℃のお湯に10分間、水に5分漬けて**温湯消毒**をします。『**温湯消毒**』は、種子を消毒する方法として、農薬を使用せずにお湯で殺菌する方法です。農薬を使わなくても、農薬と同等の効果が得られるので、滋賀県の環境こだわり米の普及とともに、水稻種子の温湯消毒の取り組みが広がっています。

温湯消毒のメリットは、①種子消毒の農薬を使わないので米の減農薬栽培が出来ます。②また農薬の廃液も出ないので廃液の処理が不要です。③農薬を使うよりも経済的です。自然にも生産者さんにも優しい技術でいいことばかりです！

温湯消毒後は、種子を水に浸けます。この作業は『**浸種**』といい、10℃～13℃の水槽に1週間から10日間浸けておきます。種子は見た目では違いが分からないため、袋には品種が間違わないように『日本晴』の品種ラベルを付けてしっかり管理します！播種の際、種子を間違えたら大変です！



催芽～脱水



芽が出た種子の様子

播種が終わると次は**芽出し**『**催芽**』をします。催芽は芽を出し過ぎると播種機に詰まったり芽が切れたりする原因となるので、作業のない休日や夜間にも担当者が育苗センターに来て種子の状態を確認しています。大変ですが種子の管理はとても大切です！催芽した種子の入った袋を遠心脱水機でしっかり『**脱水**』します。地味ですがこれも大切な作業です！水気をしっかり切らないと播種の際に播きムラや機械故障の原因となります！種子も機械も優しく扱いながら作業を進めています。